

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1090700061		
法人名	医療法人 六花会		
事業所名	グループホーム あんず		
所在地	群馬県館林市代官町8-15		
自己評価作成日		評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-joho.pref.gunma.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人群馬社会福祉評価機構		
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12		
訪問調査日	平成23年3月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>①あんずの家族として穏やかに生活できる ②地域のつながりを大切に、楽しく交流図り開かれた施設でありたい ③見守り、待つゆとりを持ってできることを見つけ、支援する 上記の理念をあげ、その人らしく生活できるように職員全員で日々、努力しています。毎年、あんず交流会を開き、ご家族や地域の方を招待しています。また、近くに系列の協力病院があるので状態の急変にも対応できる施設です。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>ホーム長をはじめ職員は、おだやかで謙虚な態度で利用者の話を聞き、対等な立場で接している。常に入居者の言葉に耳を傾け、日々無理強いないケアに取り組んでいる。また、利用者は受け身にならずに其々が役割を持ち、生き生きと前向きに暮らしている。理念の一つである「見守り、待つゆとり」が徹底しており、その結果が利用者の自立に繋がっている。また、管理者は、職員の働き易さと利用者の心地良い暮らしに向けて、常に問題意識を持って取り組んでいる。全職員が真摯な姿勢で、より良いホームづくりに努力している。協力病院との連携により、24時間365日対応可能であり、年2回の健康診断の実施、リハビリ職員や看護師の訪問等、本人や家族そして職員も安心な環境のなかでケアに努めている。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者と職員が共に「①あんずの家族として穏やかに生活できる②地域とのつながりを大切にし、楽しく交流を図り、開かれた施設でありたい。③見守り、待つゆとりを持ってできることを見つけ、支援する」という理念を考えたしている。理念は共有され、入居者に合わせた個別ケアを実践し、その有する能力に応じて自立した日常生活を送れるように取り組んでいる。	一昨年前に、職員会議で理念を見直し、わかりやすい言葉に変えた。管理者、職員、利用者全員が、「あんず」の家族として地域と交流しながら穏やかに生活できるよう支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の行事に参加を行い、外部よりボランティアを受け入れている。また、2ヶ月に一度、運営推進会議を行っており地域の方と意見の交換を行っている。さらに回覧板を回して地域の情報を収集している。	地域との交流の機会を多くもち、小中学校から運動会やコンサートへの誘いを受け参加したり、保育園の先生や子供達と日常の散歩の時に挨拶を交わしたり、地域ボランティアを受け入れたり、夏祭りにはホームが子供神輿の休憩場となっている。また、町内会に入り、回覧板が回り、町内行事にも参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方が気軽に寄っていただけるように、どのようにしたらいいか、話し合っている。また、散歩に出かけた人に立ち寄りいただいている。介護相談や認知症の相談があった場合は対応している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	開設以来、2ヶ月毎に開催を行っている。出席者は区長、地域住民、家族、利用者、病院関係者、市職員で行っている。会議には外出行事やボランティア等の助言をいただきサービスの向上に生かしている。	会議では、ホーム行事の情報を提供？報告したり、演奏やダンスなどの地域ボランティアの紹介を受けたりしている。また、利用者の尿失禁等の状況把握について等のホームと家族との間の困りごとを相談して、対処方法のアドバイスを受け、ケアの変更や受診に繋げている。全家族に開催の案内をしているが、出席率が低い。	事業所の取り組みや具体的な課題等を話し合うためにも、多くの家族が出席できるような工夫を期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	人員についての基準や、事故報告書の提出等の必要な状況について等、困ったことがある場合は、そのつど市役所に相談している。また、実地指導や運営推進会議を利用し困りごと等を相談している。	運営上判断のつかない人員基準・施設内事故報告の提出基準や業務上の疑問点などを、相談している。胃瘻介護の必要な利用者についての相談では、利用者本位の観点から別の施設の選択に繋げるなど市担当者と相談しながら行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて	身体拘束を行わないケアを実施している。マニュアルを作成し対応している。職員間でも話し合いの機会を設けている。玄関については、現在、番号キーを使用しているが外部からの出入りは自由である(ご家族には了承済み)。	職員は、身体拘束排除について研修会等により、共通認識している。玄関は、家族の希望に沿い安心を重視してナンバーキーでの開け閉めをしている。外に出たい方には、その都度付き添って散歩をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払	管理者、職員は高齢者虐待関連法について話し合い、虐待がどのようなものかを理解し、虐待を見逃さないように努めている。また、介護職員としての理念を一人一人が理解している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在必要な方がいないが、マニュアルを作成し、また、必要な方には援助を行っていると考えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所前より、話し合ったり、ホーム内を見学していただき、あみずでの生活に疑問点等を利用者やご家族が質問していただきお答えしている。また、入所時にも同様に不安や疑問のある点は説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者やご家族が気軽に意見が言えるように意見箱を設けている。また、利用者や家族の言葉を常に受け止め話し合いをする機会を設けている。施設内で解決できない場合は運営推進会議を利用している。	家族の要望は個別的な事が多く、ベッドメイキングや外出の頻度についてを希望される方には、スタッフの合意の下で対応している。面会時に個々に話し合ったり、ケースによっては運営推進会議で取り上げて相談している。また、家族の希望で、菊の見学に出掛けたこともある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	大事なことは、管理者が独断で判断するのではなく、職員と話し合いで決めている。また、毎月の職員会議の他、常に職員の意見や提案に耳を傾け、管理者、設置者は運営に反映している。	管理者は、常に職員の意見を聞き、話し合いの姿勢で運営している。主に物品の購入や勤務表の作成などは、職員の意見を反映させている。また、職員の昼の休憩については、管理者と職員で話し合いを行い決定している。その他意見を自由にだして、自主的に業務に取り組めるよう配慮している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	ケアの結果が見えるように工夫している。また、介護職員処遇改善交付金の申請を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	同法人の研修会に参加している。また、姉妹法人にグループホームがあり、交換研修を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に入会し、研修会等に参加している。姉妹法人の施設にグループホームがあり、意見や情報交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に可能であれば本人に中を見ていたとき、その際に、あんずでの生活について説明を行う。また、本人が無理な場合でも家族の方に中を見ていただき、あんずでの生活をどのようなものにしていくか希望を聞くようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所の申込書に本人の状態について記入する項目があり、また、ご家族や本人と面談し、現在の困りことや不安なことについて聞くように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用の際は、現在どのような状況にあるか聞き取りを行っている。また、入所が困難な場合は、他の施設への紹介を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者と共に生活するという意味で食事を一緒に取っている。職員も利用者より生け花や大正琴や地域の民話を教えてもらっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会については、記録に残しているが、面会簿や面会時間はあえて設けていない。ご家族の方がいつでも来れるように対応している。あんずに来られた時はくつろいでいただいている。また、行事への参加を呼びかけ利用者や利用者のご家族が共に喜びを分かち合えるようにしたい。あんず交流会にご家族を招待している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人と馴染みの深い方々が訪問してくれる場合が多く、話をして楽しい時間を過ごしてもらっている。また、病院で定期受診時に知り合いの人に会うことが多い	馴染みの方のホームへの訪問が多く、職員は関係の継続に配慮して、共有空間や居室等面会場所を設定したり、お茶を提供したりと、友好的に対応している。また、キリスト教の利用者に、神父が定期的に訪問している。数名の方が、入居前の美容院を継続して利用したり、協力病院の受診時に、地域の友人に出会う事が多い。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の会話でお互いが励ましあっているの見受けられている場合は互いの様子を観察し無理に職員が介入しないようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後、病院に入院や姉妹法人の施設に移った方が多く、継続的にかかわりを持ち、面会や相談を実施している。買い物時であった場合でも気軽に声をかけてもらっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の方や、家族の人から、意見や要望を聞き、ケアプランや日ごろの介助やレクリエーション、行事、外出行事に反映している。	温泉・夫の墓参り等行きたい所や食べたい物・飲みたい物など、本人の意向に沿って可能な限り実現させている。また、ケアの中で表情、しぐさ、家族からの聞き取り等により、把握している。面会が少なく家族や本人からの意向が把握できないケースでは、元気な時の人柄と生活に現状の様子を照らし合わせて、職員が意見を出し合い試行錯誤しながら自立に向けた暮らし方を探している。	家族の協力が得られない難しいケースでは、今後も更に働きかけを行い、本人の今やこれまでのことをよく知っている人々で本人本位に検討を続けることを期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	その人らしい暮らしの援助として、入所時に、生活歴の聞き取りを行いバックグラウンドの把握に努めている。また、お部屋に持ってきていただくものや、箸、茶碗等はなるべく以前から使っていたものを用意してもらっている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	排泄のパターンやバイタル等を観察している。また、昼夜問わずに様子を観察し、その利用者にあったペースで生活できるように努力し、職員間の情報交換をしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	チームケアのために、入居後の状態の申し送りは常時行っている。月一回の職員会議や、ケアカンファレンス、申し送り等で意見交換を行い、ケアプランを作成している。また、つきに一度、モニタリングを実施している。	本人、家族、主治医、看護師等の意見を聞き、課題を抽出している。家族とは面会時に話を聞くようにしている。職員は3名の利用者を担当して、ケアプランや苦情、リスクに対応し、職員会議で行われるカンファレンスやモニタリングには担当職員が必ず出席して、全員で意見を出し合い現状に即したケアプランを作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の記録物を見て、アセスメントを取り直し、ケアカンファレンスを行い、家族の意見を反映しケアプランの見直し作成を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族が会いに来られたときに要望を聞き出し、通院やレクリエーションの取入れを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議を利用し、地域の行事に参加している。避難訓練を行う際は近所の方に声をかけたり、消防の人に立ち会ってもらい実施している。また、利用者の好みの美容院や理髪店がある場合は、家族との調整を行っている。外部のボランティアの受け入れも行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時に、主治医の確認を行っている。また、近隣に24時間受診可能である協力病院があり、定期通院を行い、指導を受けている。その他、年2回の健康診断を実施している。	協力病院への受診は、職員同行で対応している。家族の希望から、毎月1回全員が協力病院を受診し健康管理が行われている。急変や急病の時には、協力病院が24時間対応可能である。その他、精神科、外科、耳鼻科については家族同伴で他の病院を受診している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	急変時に対応できるように近くの協力病院の看護師と連携をとっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院したときは、なるべく面会に行くようにしている。退院時は情報提供書をもらうようにしている。また、系列の病院以外の場合は、紹介状をいただくようにして、スムーズに施設の生活に復帰できるように対応している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族と今後、重度になった場合や終末期について話し合いを行っている。話し合いの結果は職員と共有している。また、本人や家族の希望に沿いギリギリまであらずで生活をしていただけるようにしている。	重度化した場合のグループホーム対応同意書や延命同意書を事前に交わしている。ホームでは看取りは行わず、その都度経過をみて、家族の希望を重視しながら家族・医療機関・ホームで話し合い連携し、食事が摂れなくなった場合には協力病院での対応としている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変時や事故発生時に備え、研修会や会議を持っている。また、マニュアルを活用している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署や協力関係者により年2回消防避難訓練を実施している。また、運営推進会議を通じて地域の方に呼びかけている。	火災時、緊急時の対応マニュアルを作成し、利用者の安全避難に備えている。自動通報装置とスプリンクラーを設置し、連絡網ができている。ホームは、避難訓練への参加協力を近隣を一軒ずつ回っている。また、区長より地域住民に対して、利用者の避難の協力を依頼している。消防訓練は、デイサービスと合同で、昼夜対応にて年2回行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉かけに対しては職員全員が本人の尊厳を大切に、注意を行い対応している。	入浴介助やトイレ誘導等は個別に対応し、声かけのタイミングや具体的な介助方法は、本人がして欲しいよう支援に努めている。身体介助は同性介護を実践している。呼び方は、さんづけが基本である。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の方には、食事の時間だけを決め、他は、自由に過ごしていただき自己決定できる機会を作っている。また、声かけを多くするようにし、要望や意見を言いやすい環境を作っている。また、本人の意向については、記録物や申し送りノートで全員が把握できるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のペースで生活できるように、無理強いはせず、意欲が出る言葉かけを行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	施設に来てくださる、美容師の方がにお願いしている方が6名いる。また、カットだけでなく、パーマや染等を行えるようにしている。在宅での行きつけがある方が3名で、ご家族に連れて行ってもらったりして、カットをしていただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入所時に嗜好について尋ね、食べれないようなものがある場合は、別のものを用意して対応している。また、好きなものを利用者から聞き出し、献立に取り入れている。	食卓には、手作りのランチョンマットやはし置きを用意し、楽しい雰囲気作りに心がけている。栄養士の献立を基に、気候や希望に応じて煮込みうどんをざるうどんに変えたり、食欲促進の為に梅干しを提供したりしている。また、状況により刻み食やミキサー食を提供している。個人の嗜好に合わせて副食を工夫している。利用者は下膳や皿洗い等に積極的に参加している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員と一緒に食事を取ることで、入居時の食事の状態を把握している。職員の申し送り等により、代替食なども工夫している。また、職員の中に栄養士がおり、栄養バランスを考えた献立を作成している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は、入居者の能力に応じた介助を行っている。また、口腔内清潔を保持している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を利用し、排泄パターンの把握に努めている。また、失禁のない方も失禁を予防している。	排泄チェック表を活用し、個々の排泄パターンを把握して声かけを行い、失敗を最小限に留めるよう努めている。個々のレベルを把握し、その人に合った介助の仕方を検討して職員が共有し、自立に向けて支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝、10時の時にコーヒーを飲んでいただいているが中に牛乳をいれたり、野菜ジュースを飲んだりして、便秘予防を行っている。また、日ごろのメニューの中に乳酸飲料、食物繊維が多いものを用意している。また、便秘がある方は病院の先生と相談しながら対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人の希望に合わせて週3回は入浴できるように支援している。ゆったりと楽しいバスタイムを心がけている。また、プライバシー保護の観点から、個別入浴で対応している。	明るく広々とした家庭用浴槽で、月曜から土曜日の午後に、4名を目安に一人ずつゆったりとした入浴を支援している。本人の希望にもよるが、週3回は入浴できるようにしている。また、ゆず湯など季節に合わせて楽しんでいる。拒否する人には、「温まると身体の調子が良くなりますよ」と説明したり、担当の職員を代えて誘ったりと試みている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夕食後フロアで、ゆっくりテレビを見ていたい方は見ていただき、その人の入眠時間に合わせて対応している。パジャマ等に替えていただく。また、夜間、安心して、睡眠をとっていただけるように、気づかれぬように巡視を行っている。眠れないと訴えがあった場合は話を聞き安心して眠れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人のファイルに内服薬の説明があり、職員が把握できるようにして、服薬を支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人が持っていた趣味等をレクリエーションに取り入れている。また、洗濯やお皿洗い等、協力してもらっている。嗜好品についてはご家族や本人の希望で晩酌されている方いる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在は寒い季節になってしまったので散歩等は体力がある希望者にしているが、これから暖かくなってから、外出等の機会を設けたい。	天気の良い時には、近くの公園に希望者を連れ立って散歩に出かけている。化粧品や酒などの身の回り品の買い物や百元ショップに出掛けたりしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在、2名の方がお金を自己管理している。また、買い物やが出行事の際にお金を使っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	現在、本人から電話をかけることをしている利用者はいないが、事務所の電話を利用してもらっている。ご家族や知人から電話があった場合は電話口に案内していることがある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	お部屋のものは、今まで使ってきたもので危険でなければ自由に持ち込んでいただいている。	共用スペースは適度な広さを有し、対面キッチンから全ての居室を見渡すことができる安全に配慮した設計である。腰高の和室もあり、そこではボランティアの踊りなどが披露されたり、日常的に利用者がここで洗濯物を畳んでいる。テレビの前にはソファを置き、入居者が好む歌や猫のDVDを観て楽しんでいる。陽のあたる中庭には自由に出入りができ、観葉植物を育てたり、洗濯物を干したりしている。現在、家庭菜園を準備中である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビの前にソファがおいてあり、利用者同士がゆったりと過ごせる空間を作っている。食事等、気のあった人と食べれるようにテーブルを分けている。一人になりたいときは自由に居室に戻ることができる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	まぶし過ぎないように明るさを調節したり、職員も必要以上に大きい声を出さないように対応している。談話スペースにソファが置いてありゆったりと落ち着いた雰囲気でも過ごせるようになっている。中庭を利用し季節の植物を植えるなど対応している。	エアコン・洗面台・クローゼット以外は、私物を持ち込み、壁には手作りカレンダーや家族の写真等を飾り、その人らしく工夫された居心地の良い居室である。空調は職員が管理し、掃除は本人も参加している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	能力に合わせ、自分のお部屋がわからないような方には表札や目印を用意している。また、個別ケアを心がけ、その人の合った生活ができるように配慮している。		